

令和5年度 小林市立永久津小学校 自己評価書

学校経営 ビジョン	笑顔と思いやり、意欲あふれる永久津っ子の育成 ～ 学校・家庭・地域が一体となって伝統と絆をつなぐ ～
--------------	---

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する
肯定的評価
児…児童 保…保護者 職…職員

知 育 学力の向上を図る。(58人、一人一人の学力向上)

目標達成のための手段	具体的な数値目標	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 「わかる・できる」まで見届ける指導	<input type="radio"/> アンケート結果 (児・保・職) ・ 肯定的評価 80%以上 <input type="radio"/> 単元テスト 年間平均80点以上 <input type="radio"/> CRT個人の伸び率 70%以上	<input type="radio"/> 授業内で、習熟の時間の確保する。	4		・ 90%で高い数値で期待以上の成果であるが、支援を要する児童の手立てなど工夫する必要がある。 (保護者の思い)
2 個に応じた指導の充実	<input type="radio"/> アンケート結果 (職) ・ 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 実態分析 <input type="radio"/> 授業における個別最適な学びの実施 <input type="radio"/> 「ぐんぐんタイム」	3		・ ぐんぐんタイムなどの時間の設定により、基礎・基本の計算力が向上した。
3 自分事として主体的・協働的に学ぶ児童の育成	<input type="radio"/> アンケート結果 (児・保・職) ・ 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 授業内で、主体的に取り組ませる手立てをとる。 <input type="radio"/> 授業内で、協働的な学びを推進する。	3	3	・ 数値的には達成できているが、児童主体の授業が十分出来ているとは言えないと職員のアンケート結果からわかる。どういった姿が児童主体の授業であるのかのイメージをしっかり職員、共通理解する必要がある。
4 タブレットPCの効果的な活用	<input type="radio"/> アンケート結果 (職) ・ 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 授業内で、本時のねらいに対して効果的な活用を図る。 <input type="radio"/> 自主研修を通して、効果的な活用方法の研修を深める。	4		・ 参観日などを通して、児童のPC等の活用場面を見ての保護者の肯定的な意見が高い。 ・ 基本的なタブレットの活用は図られてきたが、今後、効果的な活用の充実を図る必要がある。
5 授業公開による研修の充実	<input type="radio"/> 検証授業一人一回	<input type="radio"/> 上記の4つの観点で研究授業を行い、検証していく。	4		・ 児童の学力向上に関わる4つの観点（主体性・協働的な学び・習熟・個別最適な学び）全員1回ずつ研究授業を行い検証した。今後、明らかになった手立てを整理し次年度に向けての足掛かりとしていきたい。

6 将来を見据え、学ぶ目的を意識させた学習指導の実施	<input type="radio"/> アンケート結果 (児:学び態度) • 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 地域・社会への関心を高める。 • 新聞活用のための環境づくり、 • 新聞を中心とした話題提供 (放送) • 地域素材の発掘とコーナーづくり	3	3. 3	• 地域や社会への関心がなかなか、低い実態であったが、昼の放送等や新聞の掲示などにより、関心度や興味が高まってきた。
7 交換授業の実施	<input type="radio"/> アンケート結果 (学び態度) • 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 複式学級における指導体制 等	3		• 本年度、専科や複式の関係で職員の負担は増えたが、それぞれが、連携を取りながら、教科の分担を行うことで、効率的に授業を実践できた。
8 基本的学習習慣の確立 ・立腰・鉛筆の正しい持ち方	<input type="radio"/> アンケート結果 (学び態度) • 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 学級での日常的な指導	2		• 児童はできている意識は高いが、職員は特に、立腰指導が徹底できていないように感じている。鉛筆の持ち方については、低学年で徹底させる。家庭との連携も図る。

徳 育 豊かな心の育成

目標達成のための手段	具体的な数値目標	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 基本的な生活習慣の定着 <i>(あいさつ・廊下歩行・清掃)</i>	<input type="radio"/> アンケート結果 (児・職) • 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 日常的な指導。 <input type="radio"/> 集会での評価。	3	2. 6	• 形式的にはできているが、時と場にお応じた心のこもったあいさつまではできていない。手本等を示し、どのようなあいさつをしたらよいのか示していく。
2 いじめ・不登校児童への対応	<input type="radio"/> 発生件数 0 <input type="radio"/> アンケート結果 (児:学び態度) • 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> IF 委員会 (いじめ・不登校対策委員会) <input type="radio"/> 校内巡視 (昼休み時間)	2		• アンケートから問題行動等を把握することができないことが多かった。アンケートの内容と実施方法を検討していく。問題行動等の経過観察について計画的に行っていく。
3 考え議論する道徳科授業の実践	<input type="radio"/> アンケート結果 (職) • 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 道徳教育研修会の実施 <input type="radio"/> 日常的な授業実践	3		• 肯定的な評価が80パーセントを超えていたので、来年度も継続して授業実践を行っていきたい。
4 読書と新聞活用の推進	<input type="radio"/> アンケート結果 (児・保・職) • 肯定的評価 80%以上 <input type="radio"/> 年間貸し出し冊数 100冊以上	<input type="radio"/> 図書室運営の充実 • 季節感・読書週間の設定 <input type="radio"/> 新聞活用のための環境づくり	2		• 学校では、読書量が増えているが、家庭では読んでいないことがわかる。また、新聞の活用ができていない。家庭学習と関連させるなど、活用の方法を検討していく。
5 体験活動の推進	<input type="radio"/> アンケート結果 (職) • 肯定的評価 80%以上	<input type="radio"/> 体験することがふさわしい教材選定 <input type="radio"/> 市バスの有効活用・年間計画作成	3		• 計画されていた体験活動のほかにも各応募等に積極的に応募し、体験活動を行った。来年度も全学年で積極的に活用していく。

体 育 基礎体力の向上と頑張りぬく心の育成

目標達成のための手段	具体的な数値目標	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 体力向上プランの確実な実行	<input type="radio"/> R5 体力テスト T スコア • 全国平均以上 80 % • 柔軟性と瞬発力の向上	<input type="radio"/> 体育授業における体力向上プランの実践。 <input type="radio"/> 運動強化期間の設定 <input type="radio"/> 外遊びの促進	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 冬休み明けから体力テストの落ち込みのある種目について改善プログラムを実施し、2月に2回目の測定を実施する。
2 外遊びの促進	<input type="radio"/> アンケート結果 (児) • 肯定的評価 80 %以上	<input type="radio"/> 校内巡視 (昼休み時間)	4		<ul style="list-style-type: none"> 外遊びをしている児童 88 %で達成できている。 自力登校 93 %で、おおむね達成できている。
3 むし歯治療率の向上	<input type="radio"/> むし歯治療率 100 %	<input type="radio"/> 啓発活動 • 掲示 • 保健だより	2		<ul style="list-style-type: none"> むし歯治療率 1月上旬現在 60.0 %。引き続き受診について対象家庭に呼びかけていく。 フッ化物洗口は、予定通り実施できている。
4 欠席0日の実現	<input type="radio"/> 欠席0日の日 100 日以上 (忌引き・出停を除く)	<input type="radio"/> 集会での評価 <input type="radio"/> 不登校傾向児童への支援・指導	4		<ul style="list-style-type: none"> 12月22日現在で 65 日だが、昨年度不登校傾向だった児童の出席日数が格段に増えているため、おおむね達成できている。

食 育 食に対する感謝と望ましい食習慣の育成

目標達成のための手段	具体的な数値目標	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 食育指導の充実	<input type="radio"/> アンケート結果 (児・保・職) • 肯定的評価 80 %以上 <input type="radio"/> 残食調査 (各学年 500 g 以下) <input type="radio"/> 弁当日の実施 年間2回	<input type="radio"/> 日常的な指導 • 食べる量と偏食 <input type="radio"/> ホームページへの掲載 <input type="radio"/> 食に関する体験活動	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 給食に関する児童の自己評価 89 %と、好き嫌いせずに給食を食べることができている。 食事のマナーに対する保護者の自己評価 73 %で改善の余地があるので、学校保健委員会、給食だより、ほけんだより、ホームページ等を活用して更なる家庭との連携を図りたい。 教育課程に沿って各食育に関する行事を計画的に実践できている。 弁当の日を計画的に実施できた。
2 食物アレルギーへの対応	<input type="radio"/> アンケート結果 (職) • 肯定的評価 80 %以上	<input type="radio"/> 複数の目で組織的に管理する。	4		<ul style="list-style-type: none"> アレルギーに関する職員の自己評価 100 %で達成できた。 年度始めに学校薬剤師を講師に招き食物アレルギー研修を実施できた。